

コウモリの被害と生態

有限会社 たかはし工営 高橋 潤

はじめに

コウモリの被害は主に糞尿による建物の汚損や異臭、騒音、ダニ等の発生病原菌の媒介などがあります。

形態

大きさは前腕長30mm～35mm、頭胴長35mm～60mm、尾長25mm～45mm、体重5～10g

生態

市街地を中心として、平野部に広く分布しています。人気のない山間部などには生息はしておりません。

夜行性で、昼間はねぐらで休み、日没近くから夜間に飛び回ります。カ、ユスリカなどの小型昆虫類を主食としており、甲虫、ゴキブリなども捕食します。活動は日没後2時間程度が最も活発で、河川などの水面や田畑、駐車場などのオープンスペースや街頭の近くなどを飛び回り飛翔昆虫を捕食します。都市部では有機物量の多い汚濁河川から大量に発生するユスリカなどが重要な食べ物になっていることが多いです。

日本では、11月の中頃から冬眠に入ります。暖かい場所に多数が集まって越冬します。3月中旬頃冬眠から覚めて活動を開始します。冬眠期間中でも暖かい日には飛翔することもあり、近年では冬眠しないコウモリも出てきております。

メスは1歳くらいから出産し、7月下旬に2～3頭の子供を産みます。30日程度で離乳して巣立ちます。10月に入ると交尾を行います。精子はメスの生殖器官に貯えられたまま冬を越し、冬眠明けの4月下旬に排卵が起こり、受精・妊娠します。

天敵はヘビや猛禽類やカラスです。

コウモリによる被害

コウモリが家屋に侵入すると様々な被害が発生します。

○糞尿による被害

天井のシミ、異臭、アレルギーの原因となり、梅雨場は悪臭が強まります。

○騒音

夜行性の為、人間が眠る夜間に羽音や鳴き声がうるさく、睡眠障害につながる事もあります。

○健康被害

コウモリにはダニやノミ等が寄生しており、これらが室内に侵入して人を指す事があり、病原菌を媒介する可能性もあります。

コウモリ対策に基本

1. コウモリの特定

- 糞の確認：黒くて細長い粒の糞が落ちている場合、その真上に巣がある可能性がたかいです。
- 侵入経路の特定：糞が落ちている場所の近くに1.5cm以上の隙間や穴が無いか確認します。コウモリは2cm程度の隙間からでも侵入出来ます。

2. コウモリの追い出し

- 忌避剤の使用：ハッカ系スプレーやナフタレン錠剤やジェルタイプ忌避剤度が有効です。
- 超音波発生器：コウモリは超音波で行動する為、他の超音波を発生させると近寄らなくなります。
- 適切な時期：コウモリの活動が活発になる春や秋が追い出しに適しております。

3. 侵入経路の閉鎖

- 隙間を埋める：こうもりを追い出した後、パテやシーリング材で隙間処理。
- 通気口の対策：目の細かい金網やパンチングメタル等で塞ぐ。
- 日常的な対策：換気扇をこまめに回したり、雨戸やシャッターを毎日開閉したりする事も必要です。



コウモリが侵入しやすい場所

以下の場所がコウモリの主な侵入経路となります。

- 換気口 家の通気の為に必要な設備ですが、コウモリは小さな隙間を通り抜け、暗くて隠れやすい換気口を利用して家に入り込みます。換気扇の無いタイプの換気口や、長期間使用されていない換気口も狙われやすいです。
- 室外機の配管 エアコンの配管周りの隙間も侵入経路となります。
- 屋根や瓦の隙間 屋根や瓦の隙間は侵入しやすい場所です。

健康被害の主な種類

● 感染症

- ヒストプラズマ症：コウモリの糞に含まれるカビの胞子(ヒストプラズマ)を吸い込むことで発症します。軽症の場合は風邪のような症状ですが、重症化すると肺炎や呼吸困難を引き起こし、最悪の場合死に至ることもあります。特に免疫力の低い人や、乳幼児、高齢者は注意が必要です。

- 狂犬病**：コウモリの唾液には狂犬病ウイルスが含まれている可能性があり、噛まれたり引っかけられたりすることで感染します。狂犬病は神経系を侵す致死性の病気です。
- アルボウイルス感染症**：コウモリの糞からアルボウイルスに感染する可能性も指摘されています。
- その他**：エボラ出血熱やSARSなど、コウモリが媒介する可能性のある病気も報告されています。また、クリプトコックス症やレプトスピラ症といった感染症も挙げられます。

●アレルギー症状

コウモリの糞に含まれるカビの胞子や細菌を吸い込むことで、くしゃみ、鼻水、咳、目のかゆみなどのアレルギー症状を引き起こすことがあります。特にアレルギー体質の人や気管支が弱い人は症状が悪化しやすい傾向があります。喘息のリスクも高まります。

●害虫による二次被害

コウモリの糞を放置すると、ゴキブリやハエ、ダニ、ノミなどの害虫を呼び寄せることがあります。コウモリの体や巣に寄生しているダニやノミが屋内に侵入し、刺されると強いかゆみや発疹を伴う皮膚炎を引き起こすことがあります。

●精神的ストレス

コウモリの糞による悪臭や生活音は、不眠や集中力の低下など、精神的な負担となり、様々な疾患を引き起こすリスクを高めることがあります。

まとめ

コウモリが住み着きにくい環境を整える事も大切です。

●水気を減らす

コウモリの主なエサである蚊やユスリカなどの昆虫は、水たまりや湿気の多い場所で発生しやすいため、自宅周辺の水たまりや湿気の多い場所を減らしましょう。雨水が溜まったバケツや古タイヤなどを片付たり、定期的な草むしりも有効です。

●LEDライトへの交換

コウモリは夜行性で暗い場所を好むため、照明を設置するのも対策になります。コウモリのエサとなる昆虫を呼び寄せにくいLEDライトがおすすめです。海外の研究ではLED照明の近くでコウモリの活動が減少する傾向が報告されています。ただし、ライトだけの対策ではコウモリが慣れてしまう可能性があるため、他の方法と組み合わせることが大切です。

●雨戸やシャッターのこまめな開閉

コウモリが寄り付かないように、定期的に雨戸やシャッターを開閉することも有効です。

●鳥獣保護法

コウモリは鳥獣保護法で保護されており、許可なく捕獲・殺傷することは禁止されています。忌避剤などを使って追い出すようにしましょう。